

愛媛県歴史文化博物館

特別展「瀬戸内ヒストリアー—芸予と備讃を中心に—」

開催期間：2019年9月21日（土）～2019年11月24日（日）



【企画展の内容・目的】

■2019年に開通20周年、31周年を迎える「瀬戸内しまなみ海道」と「瀬戸大橋」に関連して、古代から近代の瀬戸内海を舞台とした歴史について、「海上交通」・「生業」・「戦い」・「城郭」・「ツーリズム」という「海」と密接に関連する5つのキーワードを基にひも解く。

■瀬戸内海の歴史を通史的に学ぶことができる機会を増やす。

■各種の関連事業で、「海の歴史」を学習する機会とする。

1. 企画展示の内容

- 開催期間：2019年9月21日（土）～2019年11月24日（日）
- 開催場所：愛媛県歴史文化博物館 企画展示室・文書展示室・考古展示室
- 入場者数：5,990人



愛媛県歴史文化博物館 外観



企画展会場 入口



1章「瀬戸内を航行する」では、備讃瀬戸及び芸予諸島周辺で近年出土事例が増加している船をモチーフとした絵画土器等を集成し、瀬戸内海を航行した船の様子を紹介した。瀬戸内海を航行し船を知ることにより、「海の歴史」との当時のくらしの密接なつながりについての理解を深めた。



※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

2章「瀬戸内に生きた人びと」では、古墳時代の芸予諸島及び備讃瀬戸地域の集落遺跡や古墳で出土した考古資料からこの地域に暮らしの人々の生活を紹介します。海浜部の発掘調査で出土した考古資料を基に、海浜部での暮らしを実感し、「海の歴史」を学ぶことにつなげることができました。



3章「瀬戸内の乱世とその終焉」では、甲冑、刀剣、肖像、文書などの展示資料により、武士の登場によって内乱の時代を迎えた中世、そして泰平につながる乱世の終焉について、伊予の様相とともに、瀬戸内を挟んだ山陽側の資料や歴史も用いて、瀬戸内地域の中世世界の一端を紹介しました。内乱の時代の瀬戸内をめぐる歴史が、海を挟んで密接に連動して歴史の舞台として捉えられることを示し、海でつながる瀬戸内圏という地域の概念についても理解を深めることができました。



4章「瀬戸内の近世城郭」では、城下図屏風、絵図、文書、復元イラストなどの展示資料により、瀬戸内の制海権をめくり築かれた近世城郭としての海城の姿をヴィジュアルに紹介しました。海を意識して築かれた海城を展示することで、近世社会における海のもつ重要性について、より理解が深めることができました。



※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

5章「描かれた瀬戸内」では、絵図、浮世絵などの展示資料により、瀬戸内海の交通について紹介した。瀬戸内に点在する島々も、海の交通を支えるターミナルとして重要な役割を果たしていたことについて、より理解が深めることができた。



6章「瀬戸内海ツーリズム」では、ポスター、パンフレット、古写真、絵葉書、引札などの展示資料により、瀬戸内海の海上整備が整い、造船技術の進歩が著しい近代において、「旅行」が楽しめるようになる様子を紹介した。近代の瀬戸内海が、当時の人々にとってどのように魅力的であったのかを知ることで、現在の瀬戸内海への興味をつなげることができた。

【来館者の声】

- 昔の人々も大切にした海を守ろうと思った。
- 塩づくりのイメージ図を見て、自分も機会があれば藻塩づくりをしてみたいと思いました。
- お城の真横に海があったり、すごく近くに海があるんだなど感じました。
- 昔から今に至るまでずっと、海の恩恵を受けて人々は生活をしているということ。
- 昔から瀬戸内海と人との結びつきが強いと感じました。
- 古代から続く瀬戸内海の地域で育まれた産業の力。
- 瀬戸内の歴史を古代から近代まで一連の流れで概観することができた。
- 古代から変わらぬ海を介した地域のつながり。海の視点から改めて中四国地域をみつめてみたいと思いました。
- 土器から昔の人の海で暮らす様子を感じることができた。人々の生活は今も昔も海とともにあるんだなど感じ、大切にしていきたいと思った。

2. 関連事業の内容

■サテライトシンポジウム「瀬戸内の近世城郭」

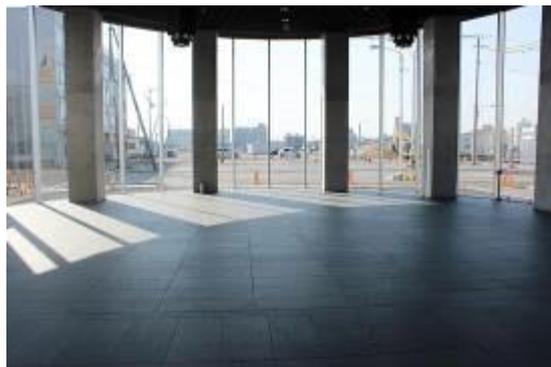
【開催日時】2019年10月19日（土）13:00～17:00

【開催場所】今治市みなと交流センター

【参加者数】150人

【実施内容・目的】

- 瀬戸内海沿岸の近世城郭についてのシンポジウムを、藤堂高虎が最新鋭の近世城郭の海城として築城した今治城のお膝元で実施し、徳川政権下の瀬戸内海掌握のために家門大名が配置された松山城、今治城、高松城を取り上げ、最新の研究成果を共有するとともに、瀬戸内海地域においてこれらの城が海の歴史と密接につながっていたことを再認識した。
- 専門家の講演、報告、討論を通じて展示内容への理解を深めることができた。



基調講演では城の復元イラストができるまでの時代考証や作画作業などについて、各報告では松山城、今治城、高松城について、それぞれ資料や風景などをプロジェクターで投影し、最新の成果などを交えながら分かりやすく紹介することで、瀬戸内沿岸地域に築かれた各城の特徴について理解を促した。



各報告者による討論の時間を設けることで、徳川政権が西日本を支配する上で、瀬戸内海をいかに重視していたか、参加者とともに考える機会をつくり、これらの城が海の歴史と密接につながっていたことへの理解を促した。



会場内には、香川元太郎氏による新作の今治城復元イラストの写真パネルを設置し、初公開を行った。作者である香川氏は参加者からの質問にも対応され、復元イラスト作成の様子を解説された。参加者は、今治城と海とのつながりについて理解を深めることができた。

【来館者の声】

- 海（瀬戸内）の重要性。
- 瀬戸内海は海運を中心に政治的に重要視されてきたことを感じた。
- 海を意識した城が身近に多数あるというのは発見だった。
- 海運経済発展を企図、理解することができた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

■海の学び講座【体験】「古代の塩づくり」

【開催日時】2019年10月13日（日） 10:00～11:30/
13:00～14:30

【開催場所】西予市明浜町オートキャンプ場「きゃんぱ」

【参加者数】35人

【実施内容・目的】

- 古代に行われた藻塩づくりを再現された広島県呉市の「藻塩の会」の指導を得て、海藻を使った藻塩づくりを博物館の周辺にある海岸で再現した。普段の食生活に当たり前のようになっている塩が、海水や海に自生する海藻を素材として作られた「海のめぐみ」であることを再認識することができた。



博物館から一番近い宇和海を望むオートキャンプ場を会場に、土器による塩づくり体験から「海のめぐみ」を日常生活の中で多く得ていることを体感することができた。

海藻を使った鹹水（濃い塩水）を土器で煮沸することで、土器による塩づくりの様子を身近に体験することができた。

【来館者の声】

- 実際に藻塩づくりを体験し、自然の豊かさを感じることができた。
- 海から頂いている塩をもっと大切に使いたい。
- 海は広いな大きいなだけじゃなく資源もたくさんだな。だからこそ海を汚してはいけないと思う。
- きれいな海が大切だと思った。
- 海からの恵みに感謝しながら、海のこわさも忘れてはいけないと思います。
- 海は身近なものであると感じました。

■海の学び講座【考古】「瀬戸内の土器製塩—ヤマト政権と特産品生産—」

【開催日時】2019年11月2日（土） 13:30～15:00

【開催場所】愛媛県歴史文化博物館第1・第2研修室

【参加者数】26人

【実施内容・目的】

- 瀬戸内の土器製塩と地域社会に関連して、徳島文理大学の久保徹也教授を講師に迎えて講座を実施し、本テーマへの興味を喚起し、理解を促進した。瀬戸内海での土器を用いた塩づくりについて、一層の理解を深め、当時の人々の海とのつながりを学ぶことができた。



弥生時代から古代にかけての瀬戸内の土器製塩を時代順に当時の政権とどのように関連しているかを解説することにより、当時の政権と瀬戸内の土器製塩が密接な関係にあったことについて理解を促した。

講座終了後も、希望者には展示室にて実物資料を前に講師による解説を受け、講座内容についての理解を深めた。

【来館者の声】

- 製塩土器（塩）の流通、王権とのかかわりがわかりやすかった。
- 瀬戸内地方の製塩地、場所及び地方が判った。
- 海水をどのようにして運んだのか。
- プラごみなどの海の汚染は絶対に防がなければならない。

■海の学び講座【歴史】「戦国乱世の終焉と本能寺の変～岡山ゆかりの史料を中心に～」

【開催日時】 2019年10月27日（日） 13:30～15:30

【開催場所】 愛媛県歴史文化博物館第1・第2研修室

【参加者数】 41人

【実施内容・目的】

- 瀬戸内の戦国時代に関連して、岡山県教育庁の内池英樹氏を講師に迎えて講座を実施し、中世の瀬戸内海が果たした役割や乱世の終焉について、一層の理解を深めた。
- 展示だけでは伝えきれない部分や、関心を高めるようなエピソードなど、専門家が分かりやすく話すことで、本テーマへの興味を喚起し理解を促進することができた。



講座内容をより理解しやすくするため、座学に先立ち展示室において関連資料の解説を実施し、実物資料の臨場感とともに乱世から太平へと向かう瀬戸内地域の様子について理解を促した。

瀬戸内の乱世の終焉の画期をつくった備前・備中地域や伊予の出来事を、全国的に著名な本能寺の変との関連も交えながら、特に岡山ゆかりの史料を中心に考えることで、太平に向かう瀬戸内が広く連動していたことへの理解を促した。

【来館者の声】

- 海による地域のつながり。
- 瀬戸内の歴史を深く知ることができた。
- 中国四国の戦国時代の終了についての関連性に興味がわきました。
- 四国と本能寺の変には係わりがあったかも知れないという話が意外でおもしろかった。

■海の学び講座【バスツアー】「瀬戸内海航路の功労者・広瀬幸平を知る」

【開催日時】2019年11月16日(土) 8:00～17:00

【開催場所】新居浜市

【参加者数】21人

【実施内容・目的】

●瀬戸内海航路の発展に貢献した広瀬幸平という人物について知るために、幸平が生きた新居浜という土地へ実際に訪れた。史料館で学びながらも、実際に瀬戸内海を近くに感じることで、広瀬幸平がどのように瀬戸内海を意識していたのかを学ぶことができた。



広瀬幸平が、新居浜市の四坂島に建てた「日暮別邸」を移築した記念館を見学した。高台から瀬戸内海を眺望しつつ、幸平が総理事を務めていた住友家の事業に関する説明を受けた。住友家が直面した公害問題について学び、改めて瀬戸内海的环境を守らなければならないと考えるきっかけとなった。新居浜市広瀬歴史記念館では、幸平の生い立ちから詳しく説明をしていただき、その人物像について深く学ぶことができた。隣接する「旧広瀬邸」は、北側に瀬戸内海を望む景勝地に建てられており、いかに瀬戸内海を意識していたのかを知ることができた。

【来館者の声】

- 瀬戸内海の重要性。
- どこまでも続く海のおかげで、外国との貿易や人と人との交流があり、国が発展していくことがわかりました。
- 天候に恵まれ、最高の景色（海、自然）が楽しめました。
- 日暮邸から見る海の景色が良かったです。
- 交通路となり重要な海路だと思います。
- 美しい海（環境・生態・景観）を守る必要性を感じた。

■ワークショップ「船のポストカードをつくろう」

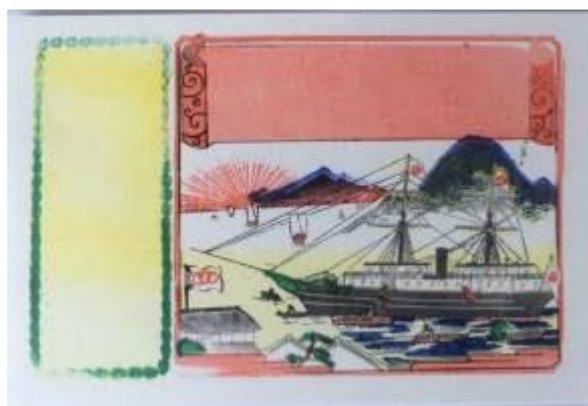
【開催日時】 開催期間中の土・日・祝 13:00 ~ 15:00

【開催場所】 当館エントランスホール

【参加者数】 182名

【実施内容・目的】

●愛媛県三津浜港の回漕店（船問屋）が発行した「引札」をデザインしたオリジナルポストカードを作るワークショップ。浮世絵と同じように、一色ずつ色を重ねて絵柄を完成させる多色刷りの技法を用いた。



船のデザインにすることにより、こどもたちの興味を引くことができた。また、地元である愛媛の港や停泊する船が描かれていることで、愛媛の海や船、それらを含めた風景にも興味を広げるきっかけとなった。

【来館者の声】

- 海は人の暮らしにとってかかせないものと感じた。
- 海を大切にしようと思った。
- 海の大切さがわかった。大切にしたい。
- 昔と今の海は全然違うことがわかりました。
- 海が汚染されたら、生態系が破壊されるから。
- きれいな海にしたいです。
- 昔から観光が盛んな事を知りました。

■ワークショップ「アコーディオンノートをつくろう」

【開催日時】 開催期間中の土・日・祝 10:00 ~ 12:00/
13:00~16:00

【開催場所】 愛媛県歴史文化博物館こども歴史館

【参加者数】 70人

【実施内容・目的】

●展示資料の瀬戸内海絵図を基にした蛇腹式のノートを作るワークショップ。
瀬戸内海の様子を自宅に持ち帰っても振り返ることもできるようにした。



瀬戸内海が描かれた絵図を基に、自分でノートを作ることにより、近代の瀬戸内海の様子について理解を深めることで、瀬戸内海を身近に感じることができた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

【事業全体のまとめ】

- ・本サポート事業を活用したことによって、瀬戸内海沿岸の歴史系博物館や埋蔵文化財センターから古代から近代にかけての考古資料や歴史資料を借用し、通史的に瀬戸内海の歴史を顧みる特別展を開催することができた。
- ・サテライトシンポジウムや海の学び講座（体験・考古・歴史）の開催にあたっては、県外からの講師を迎えることにより、新しい視点で当地域の歴史像を描くことができ、新たな「海の学び」を創出することができた。
- ・各種のワークショップや関連事業では、子どもから大人までの幅広い年齢層の参加があり、参加者の感想も好評であった。
- ・参加者の感想には、「古代から変わらぬ海を介した地域のつながり」や「海は身近なものである」という感想の他に「海を大切にしたい」という感想も多くあり、「海の学び」について大きく貢献することができた。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 岡山県立博物館	連携 資料借用、展示への指導・助言
2. 香川県立ミュージアム	協力 資料借用、サテライトシンポジウムへの協力
3. 四国地区埋蔵文化財センター (愛媛県埋蔵文化財センター・松山市文化スポーツ振興財団埋蔵文化財センター・香川県埋蔵文化財センター・徳島県埋蔵文化財センター・高知県埋蔵文化財センター)	協力 資料借用
4. 今治市村上水軍博物館	協力 資料借用
5. 一般財団法人 今治文化振興会	協力 展示、サテライトシンポジウムへの助言・協力

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 愛媛新聞	瀬戸内地方の変遷たどる 西予・県歴博 9月28日
2. 山陽新聞	秀吉「備前国で乱暴するな」宇喜多氏配慮の指示書 倉敷の寺入手 愛媛で初公開 10月9日
3. ケーブルネットワーク西瀬戸	ニュース「特別展瀬戸内ヒストリア」 10月10日
4. 読売新聞	備前での乱暴 禁じる書状 秀吉、「中国攻め」で秀長に 10月12日
5. 愛媛新聞	藻塩作りで古代の生活体感 西予 10月19日
6. 読売新聞	土器使い藻塩づくり西予で体験講座 10月19日
7. 西予CATV	ニュース 土器を使った藻塩作り体験 10月22日
8. 朝日新聞	秀吉の掟書乱暴禁ず 弟・秀長宛て書状西予で特別展 10月26日

9. 愛媛新聞	今治城復元図制作の裏側は「瀬戸内の近世城郭」市内でシンポ 10月27日
10. 今治CATV	特別展「瀬戸内ヒストリー—芸予と備讃を中心に—」サテライトシンポジウム「瀬戸内の近世城郭」11月27日・12月1日・3日

以上